

発行 KOA 森林塾 (事務局) 0265-70-7065
 編集 坂野慎治
 題字 島崎洋路

『木口と木肌を眺めてみると』

通年コース第十・十一回開催報告「見学、枝打ち」

台風一過の秋晴れとなった十月初旬の伊那谷。一日目は、木材流通の一端を見学。まずは伊那木材センターへ。ここは長野県森林組合連合会が運営する県内三ヶ



木口と木肌からわかることは

所の市場の一つ。市売りを二日前に終えたばかりの土場には、数台のトラックにそれぞれ買われた材を積み込んでいくフォークリフトが職員の方の運転で忙しく動き回っている。



木の個性を生かして

ました。一瞬盛況な風景ですが、材価は下落の一途。特に今年に入ってから激しく、ヒノキ中玉で未口16cm・18cmの3m柱材の立米単価は二万円程度だそうです。主に建築材として多くの地元材がここを経由していくので、入札によって市況を作り込んでいく市場としては難しい状況が続

いているようです。ただ森林塾の模擬入札では高値落札が相次ぎました。丸太の木肌や木口から曲がりや節・年輪幅・芯の位置などの見るべきところを教えてもらい、極毎に立米単価で入札してみました。

場で、珈琲と奥様手づくりのケーキをいただきながら、丸太の調達方法や数十種におよぶ板見本の一枚一枚について、その性質や特徴、どんなところに使ったかを話してくれました。多様な木の色・香り・肌触り。

さて午後は有賀建具店さんへ。欠点のない丸太は無いけれど、基本的にどんな曲がり材や端材でも何らかの使い道があるという親方は、「森世紀工房」のマイスターでもあります。様々な形状・材種の椅子や彩り豊かなドアなどの作品を準備して下さった作業

の厳冬期を除いた時季に行う枝打ちの最近の方法は、ボタン材になるのを防ぐため枝隆(枝座)を残すのが主流。ぶり縄で、ワンタッチラダーとアブミで、枝を利用して丁寧に作業。そして午後はキャタトラ集材。保残木の間を抜け、切り株を避けながら丸太に近づき、ワイヤーの先端に付けた大きなトンングで丸太を挟んで引き寄せて、デッキへ積み込んで運び出す作業の繰り返しで、散在していた丸太が集積されていきました。間伐・集材・枝打ちを実施したヒノキ林は、明るく綺麗な林分になりました。二日間、お疲れ様でした。



通年コース 第十・十一回

10月9日(金) 見学

8時30分

鳥崎先生の山小屋に集合。日程説明のあと、早川講師による森林組合の変遷や木材流通の概要講義

9時10分

分乗して伊那木材センターへ向かう。

9時20分

高見所長さんから森林組合連合会の組織や最近の丸太価格の動向、丸太のどのようなところを検分するかなどをお聞きし、

10時25分

森林塾用に準備して下さった極を見て回る。径級・長さなど丸太の仕分けの目的、年輪幅・節・腐れ・芯の位置・曲がりなど木口や木肌を観察する。



手木とロープで



ぶり縄で枝打ち

11 時 25 分

保科先生の模範演技。ワンタッチラダーとアブミで陽樹冠に辿り着いたあとは、目的の枝打ち高さまで枝を利用して登り、下降しながら枝を打つてくる。

12 時

陽当たりの良い現場近くの河川敷で昼食。12月の復習の希望を聞く。

13 時 10 分

午後は枝打ちをする班とキャタトラで集材をする班と。枝打ち班ではぶり縄で三段以上の高さまで登っての作業。キャタトラ班は、林内に散在している丸太を集積して土場へ。

16 時 10 分

作業を終了し、小屋へ。

16 時 30 分

次回連絡をして、終了、解散。お疲れ様でした。

参加者/安部(貴)さん、安部(英)さん、池中さん、大槻さん、荻上さん、沖永さん、加藤さん、栗本さん、島谷さん、武田さん、増田さん、村田さん、熊木さん、園田さん

園田さん

講師/保科先生、早川講師
スタッフ/大野、川島、平林、坂野



専門コース第三回開催報告 『上方へ倒す』

専門コース最終回の三日間、今回の設定は傾斜地での伐木造材。

九十九折に歩くような林分では、道具や燃料などを置く場所も考えあぐね、伐倒の体勢を確保する位置はもちろん、退避路の方向も限られる。そんな中、等高線方向や谷側への伐木を織り交ぜながら、できるだけ傾斜上方への伐倒をすることに。足場を固め、受け口の水平と斜めを連続して伐り、追い口伐りでは矢を使って重心の移動を試みる。

隣接木にかかるように幹を傾け、つるを少しづつ伐り離して、トビで滑らせて倒したら、チェーンソーを幹に預けて枝を払い、必ず山側から造材を行いました。合計九日間の講座で着実に技術を自分のものにしていただけでしょうか。今後は、実践の機会をつくり経験を重ねて下さればと思います。まずは大胆さを除いて、周到的な準備と細心の注意で自分の流れで作業ができるように。

みる。隣接木にかかるように幹を傾け、つるを少しづつ伐り離して、トビで滑らせて倒したら、チェーンソーを幹に預けて枝を払い、必ず山側から造材を行いました。合計九日間の講座で着実に技術を自分のものにしていただけでしょうか。今後は、実践の機会をつくり経験を重ねて下さればと思います。まずは大胆さを除いて、周到的な準備と細心の注意で自分の流れで作業ができるように。

11 時 5 分

模擬入札開始。お目当ての丸太は落札できたでしょうか。実際の市では誰でも保証金を出せば落札できなければ返還されますし入札に参加できます。もちろん見学だけでも可能ですので一度参加してみてください。如何でしょうか。

12 時 10 分

大芝高原へ移動して昼食。

13 時 15 分

有賀建具店さんへ。

13 時 25 分

各種の椅子に座らせてもらい、珈琲と奥様手づくりのケーキを頂きながら、親方から丸太の調達方法や製材方法、様々な木の特徴と用途などの講義を受ける。

色とりどりの薬箱やドア、テーブルセットのようにオリジナルの家具を注文してみませんか。

16 時 40 分

見学を終了し、小屋へ戻る。

16 時 55 分

講師講評。終了、解散。

10月10日(土)

枝打ち

8 時 30 分

鳥崎先生の山小屋に集合。日程説明のあと、特別講師の保科先生の挨拶。

8 時 45 分

早川講師の丸太材積・幹材積の求め方、枝打ちの目的

10 時

各班に分かれて、手木を麻縄に結び付けたら、安全帯を装備して、ぶり縄での木登り。安全帯の使い方・ぶり縄の掛け方・手木の上でのバランスの取り方・降りる方法などの練習をした

ら、枝打ちです。枝隆(枝座)を残して、幹の皮を剥がさないように。

9 時 15 分

や時季・方法の講義。

保科先生から枝打ちは量より質で丁寧な、太い枝は二回に分けて切り落とすこと、安全帯に身体を預けて作業することなどの注意を受けたあと、班分けをして前回と同じ野底のヒノキ林へ向かう。

専門コース第三回開催

10月1日(木)

～3日(土)

一日目

8時30分

島崎先生の山小屋に集合。講師挨拶の後、早速 富島の現場へ出発。

9時5分

機材を準備。講師から傾斜地での伐倒方向について説明を受け、今回はなるべく傾斜上方に伐倒することとしました。

9時25分

退避路・足場をしっかりと確保し伐倒を開始。受け口の水平・斜めは一連の動作で。追いつき伐りでは矢やフェリングレバーを使って幹に傾きを与える。枝払



フェリングレバーで傾きを

いは山側で。造材も山側で、市場向け・新用に長さを決めて。

12時

現場で昼食。

13時10分

伐倒再開。傾斜下方へ倒してみて、上方との伐倒・枝払い・造材の作業性を比べてみる。等高線方向へも伐倒してみる。その後は傾斜上方への矢を使った伐倒を繰り返す。

16時

作業を終了し、機材を片付けて小屋へ。

16時40分

講師講評。終了、解散。

一日目

8時30分

島崎先生の山小屋に集合。

朝から雨。こんな日にはアイスマライス。

8時40分

まずはロープのアイ加工。二本に分けて口差しをしたら、一越し一差しのかこ差し。

9時30分

今度はワイヤーのアイ加工。ストランドを4本と二本に分け、4本の一本一本を口差し。その後、6本のストランドを一本づつ本線に巻き差し。

11時45分

小屋にて昼食。

13時

もう一方のアイ加工を自力で。本差しが終わったら、半差しにも挑戦。

16時10分

講師講評。終了、解散。

二日目

8時30分

島崎先生の山小屋に集合。講師挨拶のあと、現場へ。

9時

機材を準備して伐倒開始。上方の隣接木にかかるように伐倒し、つるを伐り離してトビで谷側へ送るといった伐木作業を行います。

12時

現場にて昼食。

13時

矢とトビを使った傾斜上方へのかかり木伐倒を

繰り返す。

16時

作業を終了し、小屋へ。

16時35分

伐木造材の技量について自己評価してみる。

16時50分

講師総括。終了、解散。お疲れ様でした。

参加者/小林さん

講師/早川講師
スタッフ/坂野

次回以降の予定

集中コース秋の部

11月5日(木)

～11月7日(土)

16時10分

講師講評。終了、解散。

第十二・十三回

12月11・12日(金・土)

炭焼き・きのこ菌打ち
復習

復習

樹木分類から始まった通年コースも、いよいよ今回が最終回となります。

一日目は、「移動式炭化炉」というものを使って、間伐集材で伐った西春近のヒノキの炭焼きを試みます。材の仕込み・火入れの後は、きのこの菌打ち。ナラの原木にシイタケを植菌してみます。ほだ木を持ち帰ることが出来ます(一本の長さが1m程度)ので、ご希望の方は大きめの袋などをご持参下さい。

二日目は、朝に炭出し。マスキ、タオル、軍手が必要で、炭もお持ち帰り頂けます。炭もご希望の方は米袋などをご持参ください。その後は復習です。保科先生の山林見学・伐倒・測量の三班で。測量希望の方は、関数電卓をご持参願います。

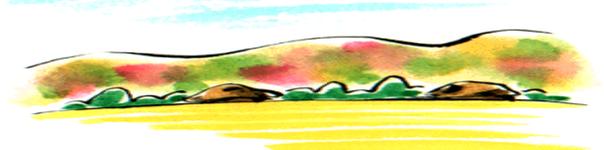
両日ともに8時30分、島崎先生の山小屋に集合です。なお、初日夕方からは、炭化炉の火の番をしつつ、忘年会を開催しましょう。山小屋宿泊可。会費は千円程度の予定です。幹事さん募集中。寝袋をお持ちの方はご持参願います。

「気持だけでは食ってはいけない」と、そう思ったのだらう。当時の僕もそう思った。実は今でもそう思っている。実際のところはどうか。その答えを知るために今、KOA森林塾に通っている。

今やっている仕事はシステムエンジニア(SE)。林業やましてや自然とは何の関わり

リレー通信

「そして、現在に至る」
栗本 光樹



自分「宮崎に帰って、林業をやろうかと思ってるんだけど。」兄「やりたくないんだったら止めはしないけど、あんまりすすめられないなあ。」宮崎にいる兄と電話で話したのが、三年前。僕は今年で三十五歳になった。

兄の林業についての知識は僕とそれほど違わないと思う。「林業で生活できるのか」「気持だけでは食ってはいけない」と、そう思ったのだらう。当時の僕もそう思っていた。実は今でもそう思っている。実際のところはどうか。その答えを知るために今、KOA森林塾に通っている。



見した。そういう

倒木による被害の状況も伝え

みて下さい。この樹の別名は



投稿大歓迎。ご意見、ご質問、ご要望、事務局まで。

TEL 0265-70-7065 FAX 0265-70-7994 E-mail: sh-sakano@koanet.co.jp ki-hayakawa@koanet.co.jp 携帯:090-4463-0062 (開催日) URL http://www.koanet.co.jp

もない仕事をしている。大学は工学部の建築学科を卒業して、大手ハウスメーカーに就職、住宅設計の仕事で四年間経験した。大学時代からなぜか「木」に惹かれ、大学の研究室では木造住宅の構造、工法についての研究を手伝ったりしていた。建築でも特に木材を使った住宅の設計をした

技術には興味があったし、仕事を通じてその時代の変化に関わっていたという気持ちからシステムの仕事を選んだように記憶している。

ば、僕は小学校の頃は毎晩屋根の上に乗って星を眺めたりしていたし、科学大好き少年だったなあ、とか、「自然」といえば、以前は都内の公園に自転車でよく行ってたよなあ、とか、自然の中の散歩とかも同年代の人より興味が

ていた。その映画をきっかけにして、現在の林業が抱える問題を知るようになり、そういう社会問題の解決に繋がる仕事をすることは意義があること

ずつと行われてきて、だれかが次に繋いでいかななくてはならない仕事ではないか。

私が初めてこの樹を知ったのは六・七年くらい前で、友人の家にこの樹があり、子供の頃からある樹なんだけど、名前がわからないから教えて欲しいと葉っぱを手渡され、検索本と首つ引きになって探した思い出深い樹です。実際にこの樹と初対面したのは、それから二年後くらいで、初夏の森を検索本片手に樹木分類しながら散歩して出て会いました。まだ花が咲くほどには大人になってない樹でしたが、遠い記憶に葉の形が残っていて、これは小豆梨ではあるまいかと検索本で葉っぱを同定、樹皮を確認して、やっと地面に生えている小豆梨との初対面を果たしたのでした。

樹の「ソラム

あずきなし 小豆梨

ばら科 ななかまど属

離弁花の落葉広葉樹で、樹高は十〜十五mになり、直径は二十〜三十cm位になります。

ばら科なので、五弁の白い小さなかわいい花が複数房花序になって咲きます。見た感じは、ななかまどの花を少し大きくしたくらいです。葉は互生で、葉の縁には浅い重鋸歯があり、脈は羽状脈なので、割とわかりやすいと思います。花の咲いている時期に出会えばなお良いのですが、そうタイミング良くいかない時は樹皮も良く観察してみして下さい。この樹の別名は

果実は秋に八〜十mmの赤くて丸い実が付き、その表面に梨のような白い皮目があり、小豆のように赤く小さいのでこの名がついたそうです。この実を果実酒にすると、程良い酸味と甘みがありとてもおいしいそうですよ。私はまだ果実には出会っていませんので、手に入ったら是非作って見たいです。

おわりに

すっかり秋です。鳩吹公園でも桜の落葉や躑躅の紅葉が始まりました。

「鷹」